

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人ゆるら

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

精神障がい者の社会参加を支援する新しいかたち IPS
～全国研修会の開催と、大会に先駆けて多摩地域で実施するモデル事業の運営安定化

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

日本の精神医療・精神保健福祉は欧米より 30 年は遅れていると言われていています。海外の支援が障害ある方を中心とした支援(リカバリーモデル)や、その方の強みを生かす方法(ストレングスモデル)に変化してきている昨今、そうした考え方を基にした科学的根拠のある IPS 型の支援を積極的に実施・普及活動を行うことで、日本の精神保健福祉の現状をより良くしていきたいという思いが、このプロジェクトを行う動機となっています。これまで障害者の支援の方法は疾病モデルの集団での訓練型がほとんどでした。このプロジェクトによって日本全体の支援の質が向上することを願っています。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

- ① 多摩地域の学生ボランティアサークル(ときたま)、日本社会事業大学(清瀬市)と連携して、2012年12月に第二回全国研修大会を東京大学にて実施しました。多くの地で実践が広がって行くことを企図し理論や日本各地の実践を紹介しました。
- ② 日本に少ない IPS 型の障害者支援が事業として十分に実現可能であることを示すモデル事業として、2012年4月より障害者自立支援法の障害福祉サービス(生活訓練)事業を開設し、主に精神障害者を対象とした IPS 型社会参加支援を実施しました。年間 20 名の契約利用者のうち 8 名の就職者、2 名の就学者、3 名の資格取得者が生まれ、経営的にも来年度以降の黒字が見込まれる事業となりました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

- ①大会に先立ち準備組織 JIPSA(日本 IPS アソシエーション)を設立し、事務局担当の NPO 法人ゆるら等と役割分担しました。大会当日は多摩のインカレサークル「ときたま」から 20 名以上の学生さんに参加者誘導等をお手伝い頂き、その結果、第一回大会よりも多い 173 名の関係機関従事者・当事者の参加がありました。
- ②生活訓練事業の実施にあたって、初年度は多摩地域関係機関との連携ケースを中心に慎重に事業を展開しました。既に IPS 型の実践を行っていた支援者の加入もあり質の高い支援を行い、就職者数など実績を上げることができました。その結果、健全経営を成し遂げた他、利用希望者も後を絶たない状態です。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

- ①当初多摩地区を予定していた会場が予算等の関係で東京大学となったのは残念でしたが、ボランティアサークルにも関わっていただき、多摩らしさは出せたのではと思っています。当日はあいにくの悪天候でしたが、たくさんの参加者に来ていただき、成功だったと言えるのではないかと考えています。
- ②生活訓練事業では当初の予想を上回る反応があり、経営的にも見通しが立ち、こちらも初年度としては成功だったと思われまます。大会運営と並行しての事業でかなり大変な時期もありましたが、報われる結果になりました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

第2回

IPS全国研修会

Chance Change Challenge

変わる障がい者雇用の環境とIPSの可能性

2012年

12月22日(土)

10:00 ~ 17:45 (9:30開場)

東京大学本郷キャンパス 医学部2号本館 於

地下鉄丸の内線 本郷三丁目駅 徒歩8分
地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩6分
都営バス 東大赤門前バス停



参加費一般：4,000円
当事者・家族・学生：2,000円

プログラム予定

基調講演
これからの就労支援の潮流

シンポジウム
CCC=ChanceChangeChallenge
IPSからはじまる希望の可能性を信じて

ワークショップ
はじめましてIPS

事例検討など分科会

講師

- 伊藤 順一郎 国立精神・神経医療研究センター
- 大島 巖 日本社会事業大学
- 中谷 真樹 公益財団法人住吉偕成会 住吉病院
- 松為 信雄 神奈川県立保健福祉大学

IPS実践者
IPS利用者
他

告知物製作: ゆるらバイトの坂本



お申し込み

<http://www.yurla.jp/jipsa2012/>

お問い合わせ jipsa2012@gmail.com

主催 NPO法人地域精神保健福祉機構 (コンボ)・JIPSA (日本IPSアソシエーション)

共催 NPO法人ゆるら / 協力 NPO法人NECST ボランティアサークルときたま

平成24年4月1日より立川市に生活訓練事業所がオープンします。

社会生活サポートセンター **こみっと**

(運営主体：NPO 法人ゆるら/障害福祉サービス：生活訓練事業)



『こみっと』は、お一人お一人の夢や希望・目標に向かって担当スタッフが寄り添いながら2年間サポートを行うサービスです。

2つのメニューをご用意し

ボランティア
を見つけない

仕事が見たい

学校に通いたい

仕事が続くよう
応援してほしい

社会参加サポート

『こみっと』では、ご本人の長所に着目し応援を行うIPSモデルの就労支援を取り入れています。

社会保険労務士
兼・介護福祉士



看護師
兼・ジョブコーチ

服薬をしっかりと
していきたい

コミュニケーション
が上手になりたい

一人暮らしを
してみたい

お金の管理が
うまくなりたい

社会生活サポート

通所プログラム（食事提供含む）と、訪問や同行などの個人サービスが中心です。

精神保健福祉士



作業療法士

さまざまなご希望に寄り添います。

- 利用期間は、原則として「最長2年間」です。
- 費用は、「自立支援法による負担額」となります。
(個人によって異なります。かからない場合もあります)

住所

メイン事業所…立川市錦町1-4-19 親松ビル302
(サブ事業所…立川市錦町5-4-20 木下ビル201)

連絡先

TEL 042-511-3139 (メイン事業所・担当：有馬)
Email: commit@yurla.jp

